

感染予防とミサ再開に関する Q&A

回答：糸井利幸先生

・緊急事態宣言から蔓延措置防止状況になったときに、ミサを再開できますか？

A：警戒レベルがステージⅣからステージⅢに移行した段階で「緊急事態宣言」から「まん延防止等重点措置」への移行を検討することになりますが、感染者の減少状況での「まん防」の内容つまり外出自粛要請の範囲と強さは京都府（知事）が決めますので、その内容で判断せざるを得ません。あとのご質問にも関わりますが、感染防止策を十分講じているのであればミサそのものは再開できると思いますが、家族内感染や移動時の感染なども考慮しなければならないと思います。

・7月中に高齢者（65歳以上）のワクチン接種が終われば、ミサは再開できますか？

A：このご質問は高齢者の発症予防の観点でしょうか。ワクチン接種した高齢者のみミサに参加とするならそれは可能です。再開の基準をワクチン接種の有無とするなら、高齢者だけではなく持病のある方々や一般人とくに働き盛りの方々の多くがワクチン接種を終了している必要があります。講演でものべましたように、ワクチン接種の有無にかかわらず、ミサ再開時には十分な感染対策を継続する必要があります。

・聖体拝領を伴わない、み言葉の祭儀だけを行う可能性はありますか？

A：聖体拝領をしないに差は無いと考えます。重要なことはいわゆる3密を避けて換気をよくし、手指消毒をしていることが重要です。これらが守られていなければ、聖体拝領の伴わないみ言葉の祭儀だけであったとしても感染機会は増えます。

・緊急事態宣言、「まん防」が続いています。信徒の「ミサに参加したい」という要望を叶えるため3密を避ける形で、小人数・換気の徹底・ソーシャルディスタンスの徹底でミサを行う可能性はありますか？ また周辺地域の感染状況を見ながら、3つのポイントに気を付けつつ、ミサを続行・あるいは再開している小教区もあります。ご意見をお願いいたします。

A：「まん防」が解除されていない状況であっても、ご指摘の対応をしっかりとこない、「周辺地域の感染状況を見ながら」ミサの再開は可能と考えますが、教会への移動や家庭での感染機会は残されているなど、小教区の置かれている環境に配慮する必要があると思います。

・コロナウイルスの変異種は、マスクをしていても感染例があると聞きましたが…。感染予防のためのポイントをご教示ください。

A：変異種であろうがなかろうが、あらゆるウイルスはマスクを通過します。マスクは飛沫の拡散・吸い込み防止に有効ですが、汚染された飛沫はマスク上に付着しています。汚染されたマスクを手で触ってその後、目や鼻・口をさわっていないか、などいろいろな原因が考えられます。変異種は感染力が強いため「マスクをしていても」というのが目立つだけだと思います。マスクを外すときは紐だけを触り、マスク本体を触らないことが正しい方法なのですが、外すときやマスクがずれたりした場合などついマスク表面を触ってしまいます。マスクの表面を触った後は、こまめに手指消毒あるいは流水で洗浄することが必要です。